２００９年度　凍土分科会報告

雪氷研究大会（2009・札幌）において凍土分科会のオーガナイズドセッションおよび総会をおこなった．参加者は 26 名であった．永久凍土に関する企画セッションに引き続き行ったこともあり盛況であった．

日　時：平成２０年９月３０日（木）18:00-20:00

場　所：北海道大学学術交流会館　第 4 会議室

講演会「凍土研究の過去と未来」　（18:00-19:30）

凍土研究を取り巻く環境が大きく変わりつつある．昔ながらの研究と最近活発になりつつある研究，あるいは周辺分野との関連をいかに図るか？今後の分科会のあり方を考える機会とすべく，溝口会長（東大情報学環）より講演会の趣旨説明があった．引き続き，工学／農学／地理学の各分野から研究の過去と未来について以下の講演があった．帯広畜産大学の土谷富士夫氏から「凍土・凍上がかかえる現在と未来」と題し，凍結深の推定，凍上対策，寒さの利用，凍結地盤と地震などについて，北海道の農業を中心に現場，室内において明らかになっていること，未解明なこと，今後の研究感が紹介された．北見工業大学の鈴木輝之氏からは，「工学分野からみた凍土研究の過去と未来」と題し，世界および日本における凍土研究の歴史とその背景，道路や擁壁の凍上害とその対策について，そしてこれからの課題でもある法面の凍上について紹介された．宮城大学の原田鉱一郎氏からは，「永久凍土と季節凍土」と題し，北海道の凍結深分布が昭和 50 年頃から更新されていないことが指摘され，これを近く再測定する提案がなされた．

分科会総会　（19:30-20:00）

本年度の活動報告として，分科会メーリングリストの整備，第 8 回および第 9 回「永久凍土のモニタリングと変動に関する研究集会」の後援，大学間交流セミナーの後援，北十勝 GEO ツアーの後援などが紹介され，H20 年度の監査報告が示された．また，関連して国際地盤校学会／TC-8 や IPA 国際永久凍土学会／PYRN 若手研究者ネットワークの近年の動向が小野丘氏，末吉哲雄氏よりそれぞれ報告された．

溝口会長から退任の伺いが申し入れられ，承認された．また，新会長には武田一夫会員（帯広畜産大学）が選出された．なお，渡辺幹事および伊豆田監事については留任が確認された．